

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	宝本 小枝子 (たからもと さえこ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	早稲田大学大学院人間科学研究科・修士 2 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 7 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本心身医学会第 64 回総会ならびに学術講演会・パシフィコ横浜
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	発表者：宝本小枝子 協働発表者：五井野龍了・金智慧・平田修三・岩垣穂大・増田和高・日高友郎・多賀努・森松明希子・猪股正・辻内優子・桂川泰典・小島隆矢・熊野宏昭・扇原淳・辻内琢也
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	福島原発事故・帰還困難区域住民の抱える心理社会的苦悩に関する質的分析：2022 年首都圏避難者実態調査から
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【概要】</p> <p>早稲田大学災害復興医療人類学研究所 (WIMA) と震災ネットワーク埼玉 (SSN) は、2012 年以来継続的に原発事故避難者に対する共同調査を実施している。2022 年度は 1～4 月に首都圏 (1 都 6 県) に避難中の 5,350 世帯を対象にアンケート調査を実施し、516 件の回答を得た (回収率 9.6%)。本研究では、得られた回答の中から帰還困難区域の 195 件を抽出し、自由記述回答のあった 58 件について KJ 法を用いて質的分析を行い、帰宅困難区域内からの避難者の心理社会的苦悩の全体像の把握を試みたものである (倫理承認 No.2021-352)。</p> <p>【成果】</p> <p>心理社会的苦悩がより原因に近い問題を I、より結果に近い問題を IV として 4 段階のステージに分類した。それぞれのステージ内からは以下のカテゴリ (a～e) が抽出された。</p> <p>I - a 帰還・移住問題 I - b 賠償問題 II - a 病気・健康 II - b トラウマ II - c 孤独 II - d コロナ II - e 仕事・生活 III - a 家族の問題 III - b 差別と偏見 IV - a 国と東電への怒り IV - b 全般的な苦しみ</p> <p>帰還・移住と賠償問題の密接な関係、被災者の高齢化の深刻化、新型コロナ感染症やロシアのウクライナ侵攻といった新要因の増加、発災から 11 年以上たった現在も継続する差別や偏見といった、避難者の心理的苦悩の要因が浮彫となった。</p>	

※無断転載禁止